

大学改革と大学図書館

雨森 弘行

名古屋女子大学常務理事

1. はじめに

(1) 平成3年の大学設置基準の大綱化と自己点検・自己評価の制度化を契機として始まった我が国の制度的な大学改革は、その後、さまざまな法令の改正や行政施策の展開を伴いながら急速な進展を見せて、本年度の国立大学法人化、学校教育法の改正による“第三者評価”の制度化、並びに私立学校法の改正による学校法人制度の改革等によって、改革推進への制度的な基盤条件が整った感がある。各大学ではその“競争的環境”の下で、抜本改革のカウントダウンが始まったといえよう。

国立大学は現在、各大学の発案に基づき文部科学大臣が定めた中期目標に則って当該大学が策定する中期計画に基づいて国の予算措置を受けるとともに、組織の再編成や人事管理の方式等に関して、従来の公務員制度から解放されて、各大学固有の特色を発揮できる体制づくりを進めている。そしてこの改革の動向は、公・私立大学へも多大の影響を及ぼしつつある。また、少子化の影響をもろに受けている大学志願者数の逡減化現象は、多くの私学経営を圧迫してきている。

(2) 一方、学術研究振興の側面では、本年6月に、科学技術・学術審議会学術分科会の基本問題特別委員会が「これからの学術研究の推進に向けて」の報告をまとめ、社会との連携の強化や個別大学の枠を超えた知の融合の推進などを柱とする、今後の学術研究の推進について提言を行っている。

今後は、そのことを実現するためにも、既に、同審議会（研究計画・評価分科会情報科学技術委員会デジタル研究情報基盤ワーキンググループ）が著している、「学術情報の流通基盤の充実について（審議のまとめ）」（2002年）や、文部科学省（研究振興局情報課）が発表している「学術情報発信に向けた大学図書館機能の改善について」（報告書、2002年）などに集約されているような、大学図書館を含む学術情報流通基盤の整備の重要性が一層増大していくことは明らかである。

(3) このような状況の下で大学改革が進行する中において、大学図書館は、自らの組織機構の在り方並びに、教育・学習支援機能、研究支援機能及び社会貢献支援機能のすべての観点から、抜本的な改革が急がれている。もとより、図書館は館種の如何を問わず、その使命を果たすために環境の変化に即応した図書館経営が不可欠の要件とされている組織であり、その経営革新の重要性が一層増してきているといえよう。そして経営の課題は詰まるところ「人」の課題に帰着するといっても過言ではない。そこで、その点に的を絞って、図書館の改革推進の要諦について述べたい。

2. 大学改革の要諦

(1) 高等教育改革の動向

- ・ 18歳人口の減少と高等教育の大衆化・多様化
- ・ 経済社会のボーダーレス化・情報化
- ・ 特色ある教育の展開
- ・ 世界レベルの研究推進
- ・ 産業及び地域社会との協働推進

(2) 大学改革推進の要諦

- ・ 中長期計画の戦略策定（ストラテジック・プランニング）（SWOT分析等）
- ・ 認証評価制度による第三者評価

3. 大学図書館改革の動向

(1) 学内学術情報流通基盤の改革・整備

ハイブリッドライブラリー機能の整備・充実(学内組織の統合・連携)

図書館サービス基本機能の確立(メタデータの精度向上、ILL協働体制の確立等)

図書館ポータル機能の整備・充実(レポジトリ、オープンアクセス等)

(2) 教育・学修支援機能の改革

図書館の利用環境・条件の整備・充実(開館時間の充実等)

学生の自学自習能力向上に資する情報リテラシー教育への支援・協働

教育・学修改革の一環としてのe-ラーニング支援

(3) 研究支援機能の改革

電子ジャーナル等、学術情報資源の共同収集と運用体制の整備

学内・外の学術情報受・発信ポータルシステムの構築

(4) 社会貢献へ向けての改革・整備

大学図書館の市民への積極的な公開(資料貸出・レファレンスサービス等)

公共図書館等との“館種を越えた広域ネットワーク”の形成による地域の生涯学習支援

4. 図書館改革推進の要諦

(1) 大学改革の戦略策定と連結した図書館の戦略策定

・図書館評価指標の導入

(2) 職員組織、SD(スタッフ・ディベロプメント)と人事考課による能力開発の促進

・専門職制 ・チーム制組織 ・適材適時採用配置 ・人事考課 ・コンピテンシー

(3) リーダーシップとマネジメントによる改革の推進

・各層のリーダーシップ ・ミドルアップダウンマネジメント

(4) 自己啓発と意識改革

・A B C D E F G ・philosophy ・mission passion action

<参考文献>

1. 土屋 俊:知識化社会における大学改革の中の大学図書館『大学図書館研究』no.60(2001)
2. 井原 徹:IT革命の中の組織・業務管理と大学経営のための三種の神器『大学行政管理学会誌』5号(2001年度)
3. 文部科学省研究振興局情報課:学術情報発信に向けた大学図書館機能の改善について(報告書)(平成15.3)
4. 龍 慶昭、佐々木 亮:『戦略策定の理論と技法』(多賀出版、2002.9)
5. 雨森弘行:図書館の「仲よし」の源を究める『名古屋大学附属図書館研究年報』第1号(2003.3)
6. 逸村 裕:大学図書館員の意識改革を『同上』(同年)
7. 永田治樹:大学図書館の経営計画と「顧客評価」『図書館の経営評価』(勉誠出版、2003.11)
8. 高等教育局高等教育企画課高等教育政策室:「高等教育改革の動向」『文部科学時報』(ぎょうせい、2004.2)
9. 野中郁次郎、竹内弘高:『知識創造企業』(東洋経済新報社、2004.3)
10. スティーブン・R・コヴィー:『7つの習慣』(キングベアー出版、2004.6)

